

ホノルル市への経済交流訪問団の派遣について（帰国報告）

1 概要

広島商工会議所と共同でホノルル市へ経済交流訪問団を派遣し、ホノルル市長との公式会談をはじめ、ホノルル市議会議長及びハワイ州知事等との面会、両商工会議所交流事業への参加、「まつりインハワイ」での観光 PR などの事業を行った。

2 訪問日程

平成 24 年(2012 年)6 月 7 日(木)～12 日(火) (4 泊 6 日)

3 訪問団の構成（合計 80 名）

- ・ 広島市：市長 松井 一實 ほか (計 4 名)
 - ・ 広島市議会：副議長 金子 和彦 (計 1 名)
 - ・ 広島商工会議所：会頭 深山 英樹 ほか (計 37 名)
 - ・ その他：壬生田楽団 23 名、雄鹿原上組神楽団 15 名 (計 38 名)
- 〔 旅行主催者（㈱近畿日本ツーリスト中国四国広島支店）募集の一般旅客等 143 名も参加。 〕

4 主要用務と成果

(1) 6 月 7 日(木)

ア 在ホノルル日本国総領事館総領事表敬訪問

最初に、経済交流訪問団の用務遂行の参考とするため、同領事館を訪問し、加茂佳彦総領事から、ハワイ州の政治、経済情勢など、約 2 時間にわたり現地事情等の説明を受けた。

イ ホノルル市長との公式会談

ホノルル市庁舎において、ピーター・カーライル市長と会談し、経済観光交流に関する意見交換を行った。会談は、両市長がお互いにファーストネームで呼び合うことを確認するなど友好的な雰囲気の中で進められた。最初に松井市長が「第 26 回全国菓子大博覧会・広島」と「2013 ひろしまフラワーフェスティバル」が同時開催される時期に合わせた広島訪問を提案したことに対し、カーライル市長はぜひ行きたいと応じられた。併せて、ホノルル市に対して、「全国菓子大博覧会・広島」でのハワイ特産菓子の PR や、「ひろしまフラワーフェスティバル」へのパレード及びステージ参加も提案した。また、カーライル市長から、外国人観光客の誘致について、例えば温泉地など固有の観光資源を持った日本国内の都市と



広島とをセットで楽しめるような取組を行ってはどうかとの提案があるなど、活発な意見交換が行われた。

最後に、両市長による「経済観光交流の促進に関する確認書」への署名が行われ、両市における今後の経済観光交流の一層の促進が確認された。

ウ ホノルル市議会議長表敬訪問

ホノルル市議会の議場を訪問し、アーネスト・マーティン議長ほか3名の議員に迎えられた。金子副議長の挨拶の後、議会運営等に関して活発な意見交換が行われた。



エ ホクラニ小学校関係者との交流

ホノルル市庁舎において、ホクラニ小学校の教員及び児童との交流会を開催した。出席児童による松井市長への質問のコーナーでは、子どもならではの素朴な質問が出され、松井市長はその一つ一つに丁寧に応じていた。

また、牛田新町小学校の児童が作成した平和をモチーフとした貼り絵を贈呈し、あわせて同小学校の児童が色を塗ったこまをプレゼントした。松井市長は、こまへのひもの巻き方や投げ方を児童に実演し、児童たちは勢いよくまわるこまに目を輝かせていた。



オ 日本語 AM ラジオ局出演

アラモアナ・センターの百貨店「白木屋」内に設置された日本語 AM ラジオ局「KZ00」（けいずー）のスタジオに松井市長が生出演し、25分にわたり広島の観光や「ザ・広島ブランド」のPRなどを行った。



カ ホノルル市主催歓迎夕食会

ホノルル市のカーライル市長夫妻やホノルル広島県人会のウェイン・トーマ会長、ハワイ日米協会のエドウィン・ホーキンス理事長など総勢約20名から歓待を受けた。

(2) 6月8日（金）

ア 宮島鳥居レプリカ寄贈10周年記念セレモニー

ホノルル日本人商工会議所創立100周年を記念して本市、広島商工会議所及び広島県の三者が協力して設立・寄贈した宮島鳥居レプリカの寄贈10周年記念セレモニーに松井市長が参加し、日本語及び英語によるスピーチを行った後、現地を視察した。



イ アリゾナビジターセンター・アリゾナ記念館訪問

最初に、案内者の主任歴史家ダニエル・マルチネス氏から屋内外の展示物の説明を受けた後、連絡船に乗船してアリゾナ記念館へ移動し、松井市長、金子副議長及び深山商工会議所会頭による献花が行われた。献花後、マルチネス氏が居合わせた来場者に市長を紹介し、松井市長がスピーチを行った。「和解による平和」の重要性を説いた松井市長に対し、100人以上の来場者から盛大な拍手が送られた。【スピーチの要旨は別紙のとおり。】



ウ ハワイ州政府産業経済開発観光局長との協議

ハワイ州政府の新エネルギー政策の責任者であるリチャード・リム産業経済開発観光局長から、ハワイのエネルギー源について、現状の輸入原油依存から平成42年(2030年)までにその70%をクリーン・エネルギーに転換する「ハワイ・クリーン・エネルギー・イニシアティブ」の要点の説明を受けた。

また、今年8月13日から15日にかけて開催される「アジア・パシフィッククリーンエネルギーサミット」も併せて紹介があった。

これらを踏まえ、ハワイ州の新エネルギー政策に対して、本市としてどのような関与が可能か、今後、研究していくこととした。

エ ハワイ州知事表敬訪問

ハワイ州政府庁舎において、ニール・アバクロンビー州知事と面会した。アバクロンビー知事は、広島市の核兵器廃絶に向けた取組に強い関心を寄せており、南太平洋で実施された核実験を目の当たりにした経験があることから、広島を身近に感じているとの発言があった。また、市レベル、州・県レベル、学術レベルなど様々な交流を強化していくことへの賛同が得られた。



オ 広島商工会議所・ホノルル日本人商工会議所姉妹提携30周年記念式典・レセプション

ハワイ・プリンスホテル・ワイキキにおいて、両商工会議所の姉妹提携30周年記念式典・レセプションが行われた。広島商工会議所の深山英樹会頭とホノルル日本人商工会議所のクリスティーン久保田会頭が「姉妹提携確認書」に署名した後、記念品の交換が行われた。このほか、北広島町の雄鹿原上組（おがはらかみぐみ）神楽団による八岐大蛇（やまたのおろち）のパフォーマンスなどもあり、会は盛況のうちに終了した。



(3) 6月9日(土)

ア スーパーマーケット「マルカイストア」訪問

ホノルル市にある会員制スーパーマーケット「マルカイストア」で開催中の「広島フェア」を松井市長が視察した。その後、松リチャード副社長らとハワイにおける小売業の現状と今後の「ザ・広島ブランド」をはじめとする広島県産品の取扱いについて意見交換を行った。



イ 「まつりインハワイ」ふるさと交流ステージ参加

アラモアナ・センター中央にある「まつりインハワイ」ふるさと交流ステージにおいて、広島観光PRを行った。松井市長挨拶、JETAA(語学指導等を行う外国青年招致事業OB)3名による広島の観光名所の紹介の後、雄鹿原上組神楽団による八岐大蛇のクライマックスシーンの演舞があり、短い時間ながらも多くの観客を魅了した。



ウ JETAA 交流会への参加

ふるさと交流ステージに参加したJETAA3名、補助スタッフJETAA3名の計6名と松井市長との交流会を開催した。交流会では、JETAAメンバーから、「広島東洋カープのウェブサイトは日本語のみだが、試合日程やチケットの購入方法を英語で発信すれば海外からも集客できるのではないか」など、観光振興に関する具体的な意見が出された。

(4) 6月10日(日)

ア ふるさと交流ステージでの伝統芸能PR

ふるさと交流ステージにおいて、北広島町の壬生(みぶ)田楽団が「壬生の花田植」を、雄鹿原上組神楽団が「八岐大蛇」を披露し、日本の伝統芸能の素晴らしさを大勢の市民や観光客にPRすることができた。



イ 「まつりインハワイ」特設ブースにおける広島観光 PR

ロイヤルハワイアンセンター中央の特設ブースにおいて、アンケートに答えて「ザ・広島ブランド」が抽選で当たる観光 PR イベントを実施した。松井市長も街頭で自らアンケートへの協力を求めるとともに、広島の観光 PR を行った。JETAA の活躍もあり、多くの方々から広島に行ってみいたいという声をいただくことができた。



ウ 「まつりインハワイ」パレード参加

ホノルル市のカーライル市長夫妻とともにオープンカーに乗車し、カラカウア大通りでのパレードに参加した。沿道に詰めかけた大勢の市民や観光客の声援に手を振るなどして応じ、両市の友好関係を PR することができた。



5 まとめ

- (1) 本市と姉妹都市であるホノルル市とは、これまで主に青少年、学術、文化、スポーツなど様々な分野において交流を重ねてきた。
- (2) 今回の訪問を通じて、両市長の信頼関係はさらに強固なものとなった。公式会談では、松井市長からカーライル市長に対して「全国菓子大博覧会・広島」や「ひろしまフラワーフェスティバル」におけるホノルル市の PR について提案し、カーライル市長からは、松井市長に対して広島の観光 PR を提案されたりするなど、今後の具体的な経済交流に向けた土台作りを行うことができた。
- (3) あわせて、本市と経済界が一体となって経済交流訪問団を結成したことにより、市長、市議会副議長及び広島商工会議所会頭の三者で、カーライル市長や、ホノルル日本人商工会議所の久保田会頭をはじめとするハワイ経済界の要人との交流を深めることができた。両市の行政・経済のトップが同時に太いパイプで結ばれたことで、今後の両市における一層の経済観光交流の促進が期待できるものと考えている。

アリゾナ記念館献花後の市長スピーチ（要旨）

（平成 24 年(2012 年)6 月 8 日）

- ・ 本日は、アリゾナ記念館設立 50 周年という記念すべき節目に訪問し、こうして花を手向けることができたことをうれしく思う。
- ・ ここで亡くなられた方々の御冥福をお祈りする。
- ・ この壁面には多くの犠牲者の名前が刻まれている。そして広島では、原子爆弾によって 14 万人もの人々が犠牲となった。いわば、日米の戦争は、このパールハーバーで始まり、広島・長崎の市民が大きな犠牲を払う結果となった。
- ・ しかし、両国には、長い友好の歴史があり、その長さに比べれば、こうした歴史的事実のあった期間はほんの一時にすぎない。
- ・ 「和解による平和」が、今こそ求められている。
- ・ 事実、私は、このパールハーバーのあるホノルル市の市長と、友好関係にある。私とホノルル市長は、過去の憎しみの連鎖を断ち、未来に向けて歩むことがいかに大切であるかを知っている。
- ・ 今、皆さんは、この場所に眠る戦没者の慰霊のためにここに来られているのだと思う。和解によって、平和な世界を実現することをここで誓いたいと思う。皆さんにも誓っていただきたい。

